令和２年度第１回　清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体
各項目に対する意見記録

１　開催日時　令和２年 10 月 19 日（月）

２　開催方法　書面による開催

３　配布資料

- 資料１　事前アンケートの結果　集約表
- 資料２　移動困難者を地域で支える方法　調査レポート
- 資料３　社協だより、あったかマスク☆プロジェクトで作成したマスク
- 資料４　各第２層協議体の取り組みについて
- 資料５　令和元年度第３回清瀬市・介護予防サービス提供主体等協議体会議録

４　寄せられた意見

（１）『１．報告事項（１）～（４）』について

- コロナ禍での各委員が所属する団体の取り組み等についてよくわかりました。
- １層 CO、２層 CO の皆さんに伺いたいです。コロナ禍の中、長期間、活動が中止された中で、圏域で、どのような活動を行って、継続してきた取り組みや活動が途絶えないようにされたのかについて、教えていただきたいです。
- 緑蔭交流サロンではスタッフがサロンの常連高齢者宅を訪問することでサロンに集まる「密」を避けることを目指しました。しかし、アンケート結果では高齢者宅訪問を中止している活動もあるとのこと。どの程度の活動まで許容されるのかの判断が難しいと思いました。
- 移動困難者対策とは少し違いますが、高齢者の運転免許返納について意見があります。事故防止の観点から免許返納は推奨されるべきことと考えますが、現状は必ずしもそうなっていないように感じています。免許を返納することで買い物などの移動が不自由になることは明らかで、移動がやや困難になると言えます。そういった方に対する支援も考える必要があると思います。（免許返納者へのシルバーパス給付、タクシーチケットの交付、運転経歴証明書発行の無償化等）
- コロナ禍の中で、それぞれの事業が出来る事を模索して行動している。今まで不通に出来ていた事が出来なくなる事は活動している側もそうだが、利用している方々にとっては大変つらい状況だったと思う。その状況が報告事項を読んでよくわかった。
- （１）について、活動を再開された団体はどのような再開基準を事前に設けたか。また、実際に今どのような感染症対策を実施して活動を再開しているか。

（２）コロナウイルス感染症拡大下における支え合いの取り組みについて

- 当センターでも登録会員向けに「清瀬市２万人筋力 UP↑大作戦」に基づいた体力測定会を実施予定（感染予防対策のため小規模開催）としております。多く

の団体や施設等でこれが普及し、市内の高齢者に幅広く認識して頂けると生活不活発病対策の一つとなるのではないかと思います。

- 移送について。デイサービス等の送迎者を朝夕の送迎以外の空いている時間に、移動の手段として使用させていただけたら、移動手段で困っている市民の皆さんは移動や買い物の困りごとが解決し、事業所は地域貢献になるかと思うのですが、検討の価値はありますでしょうか。
- 市内に数カ所、インターネット環境を備えた部屋にZOOM、LINE、スカイプ、インターネット囲碁・将棋などのアプリが整ったパソコンを置いて安価に（できれば無償で）利用できるようにします。そこへ行けば遠方の孫に会って話が出来、碁を打て、将棋も指せるようにします。コロナ禍で人の接触が難しい時代に、ひとつのストレス解消に役立てればと思います。
- 移動困難者への支援として、都内のバス・都営交通機関を利用できるシルバーパスの支給を検討して頂きたいと思います。現在、住民税非課税の方は千円、その他は約２万円ですが、例えば市の支援で、７５歳以上は所得にかかわらず千円、８０歳以上は全員無償にするなどとすることで、移動がしやすくなり不活発病の予防などに有効と考えます。
- 事前アンケートからは活動性が低下している高齢者が増えてきていることがうかがえます。３密や飲食等の回避したちょっとした外出のきっかけになる取り組みができると良いと思います。
- 何かしらのアクションをおこし、高齢者の方々がつながっているという気持ちをきらさないようにしてほしい。例えば、お顔を見ての交流がまだまだ難しいので、手書きの一言メッセージやかかわっている方々の似顔絵がかかれた用紙をお渡しするなど、見守りしていますよ…というような姿勢があらわれるようになればと考える。

（３） その他（第１層協議体の取り組みに関するご意見等）

- 令和３年３月８日に開催を予定しておりました「シルバー人材センターフェア」ですが、イベントの規模が大きく、それに伴う感染予防対策が困難であることから、開催を中止することといたしました。
- 令和元年度　第３回　１月１４日　協議体にて、「社会資源一覧表」の調査項目が発表されました。コロナ禍で外出や活動に制限がかかっているからこそ、必要な情報だと思います。協議体の取り組みとして、印刷物やSNSでの発信を期待します。
- サロン、囲碁の会、歩く会などに携わって感じることがあります。それはご主人を亡くされた女性に比べて、奥様を亡くされた男性はなかなか立ち直るのが難しいということです。奥様を亡くされて地域の活動に顔を出さなくなった方を複数人見ています。地域との縁が薄くなることはフレイルや不活発病、ひいては認知症のリスクも大きくなると思います。支援のターゲットとして、奥様を亡くされた高齢男性を取り上げることを検討してはいかがでしょうか。
- それぞれの団体から委員さんが集まる協議体なので、話し合っている内容について発信をもっとしてほしいと思う。